

第56回大阪建築コンクール入賞 発表

①募集期間 平成22年2月16日(火)～2月28日(日)

②募集範囲

	大阪府知事賞部門	渡辺節賞部門
応募者の資格	応募作品の設計者／大阪府建築士会正会員	応募作品の設計者／ 竣工検査済証発行日現在 39歳以下の大阪府建築士 会正会員
対象建築物	ノンセクション（住宅を主としたものを除く） 第1部：延床面積3,000㎡未満の建築物 第2部：延床面積3,000㎡以上の建築物	建物の種類・規模は 問わない
建築位置	大阪府：全域 滋賀県：大津市、草津市 京都府：京都市、長岡京市、向日市、八幡市、大山崎町、亀岡市、宇治市、城陽市、京田辺市、相楽郡 兵庫県：尼崎市、伊丹市、西宮市、芦屋市、神戸市、明石市、宝塚市、川西市、猪名川町、三田市 奈良県：生駒市、奈良市、香芝市、生駒郡、北葛城郡 和歌山県：和歌山市	近畿二府四県 大阪府・滋賀県・京都府・ 兵庫県・奈良県・和歌山県
竣工年月日	平成19年1月1日から平成21年12月31日の間に竣工し、竣工検査済証の交付を受けた建築物	

③応募総数 36点 大阪府知事賞部門 第1部：13点 第2部：6点 渡辺節賞部門 17点

④審査

委員長 遠藤 剛生（神戸芸術工科大学 環境・建築デザイン学科 教授）

委員 ※50音順

岩田章吾（岩田章吾建築設計事務所）

陶器浩一（滋賀県立大学 環境科学部環境建築デザイン学科 教授）

原田哲夫（竹中工務店 大阪本店設計部 設計課長）

松本 明（近畿大学 理工学部建築学科 教授）

南 正晴（大阪府 住宅まちづくり部公共建築室 室長）

山本恵久（日経アーキテクチュア プロデューサー）

米田 明（京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 准教授）

審査委員会4回

第1次審査 書類、写真によって、知事賞部門 第1部4点、第2部3点、渡辺節賞3点選考

第2次審査 第1次審査通過作品について現地審査2日間

最終審査 大阪府知事賞部門：第1部／1点 第2部／1点 特別賞／1点 渡辺節賞：該当なし

大阪知事賞部門	第1部	Grotto	芦澤竜一
	第2部	追手門学院大学 1号館	須部恭浩
	特別賞	トヨタカローラ新大阪本社	倉田悦男
渡辺節賞部門	該当なし		

⑤表彰式・入賞作品展・講演会

●表彰式

とき 平成22年5月25日（火）本会通常総会式典席上

会場 ホテル大阪ベイタワー・4階（大阪市港区弁天1-2-1 ORC200内 TEL06-6577-1111）

表彰内容 1. 大阪府知事賞・特別賞：設計者 大阪府知事より賞状授与、建築士会会長より副賞メダル授与
2. 建築主及び施工者：建築士会会長より感謝状授与

●入賞作品展・講演会

1) TOTO テクニカルセンター 大阪 2階会議室 6月3日(木)～4日(金)10時～17時

4日(金)17時30分から 同会場にて、受賞者講演会を実施予定

2) ハービス OSAKA 4F リビングギャラリー 6月8日(火)～21日(月)11時～20時(最終日は16時) 無休

3) 大阪府庁別館1階ロビー 6月22日(火)～7月5日(月)9時～18時(初日は11時～、最終日は16時まで)

審査経過並びに総評

審査委員長 遠藤剛生



一つひとつの作品が、個々の設計者の思いを込めて作られている。今回応募された作品は36作品あり、その中から10作品が現地審査対象になった。設計者から説明を受け、現地で空間体験できた事は、審査員が本来の審査をするという事は当然の事としても、それと同時に一建築家としての立場で考えると、大変楽しい瞬間でもあった。建築作品に限った事ではないが、作品は常に各々の時代の社会の中でつくられながら、過去に学び、過去と繋がり、関る時代の社会の中にありながら、未来を切り開こうと常に考えている。しかし、それが現代という社会の中にあるとすれば、今日の社会を表層的に甘く捉えるか、その本質を厳しく見つめているかによって、そこから生まれてくる作品の質は、自ずと異なったものになる。今回、我々が接した作品の中に、真の意味において今日の時代の精神を表そうとする強い意志を持って、時代を越える作品を作ろうとする強いエネルギーを感じられる、幾つかの作品と出会うことができたのは幸いだった。

審査は、8人の審査員による合計4回の審査によって、受賞作品が決定された。第1回の審査は、平成22年3月16日に建築計画の概要と図面、及び写真等の提出物による審査が行われた。第2回及び第3回の審査は、3月30日と4月13日の2日間現地審査が行われ、第3回の現地審査の終了後、大阪府建築士会の会議室に於いて、第4回の最終審査が行われた。審査は各審査委員の各々独自の審査基準を基に行われ、私は次の4つの要素と照らし合わせながら評価を行った。まずその1つは、個々の設計者が計画しようとする建築と、それに関する種々の要素をどのように「認識」し、理解しているかという点についてである。その一例を取り上げると、自然についてどう考えているか、歴史については、人と人の関りは、開くということ、閉じるということ、等々、計画すべき建築に関する要素をどこまで読み、それを空間の中にどう反映しようとしているかということである。次に先述の種々の認識を空間にどう表すかという、まさに設計者個人人の「感性」の鋭さと、それから表れる空間の鋭さについてである。この「認識」と「感性」については、まさに設計者個人の人間性に関する部分である。それに対して、第3の要素は、建築には道具として果たさなければいけない役割がある。すなわち、建築における「機能」の問題である。計画すべき建築の本質を深く読み、真に必要な要素と、何となく惰性に流され、無批判のまま加えている要素のあるや無しについて、的確に判断する。最後は「技術」についてである。その技術を単に建築を現場でつくる技術だけと、捉えるのみならず、例えば計画の進め方、プランのまとめ方、空間と光の関係の読み方、ディテールとその詰め方等々、計画のスタートから竣工するまでの空間の読み方、作り方等、種々の技術を指している。この第3、第4の要素は、物に関する要素についてである。すなわち、設計者個人人の資質に関する「認識」の問題と「感性」、次に物のあり方に関する「機能」の問題と、空間をつくる「技術」、この4つの要素が有機的な関係を持ち、その要素が関る中心に、建築空間があるという考え方である。このような視点で、各作品の評価を行った。

その結果、第1次書類審査の段階で、大阪府知事賞部門第1部、(延床面積3,000㎡未満の建築物)では、応募13作品の中から4作品が現地審査の対象作品として残った。次に同知事賞部門第2部

(延床面積3,000㎡以上の建築物)では、応募6作品の中から3作品が現地審査の対象になった。そして、渡辺節賞は、17作品の中から3作品が現地審査の対象作品として残るという結果を得た。第2次現地審査は2日間に分けて行われ、その結果大阪府知事賞部門第1部では、設計者:芦澤竜一による店舗、オフィス、SOHOの複合用途の「Grotto」が選ばれた。この作品は、イタリア南部バジリカータ州マテーラの洞窟住居(Grotto)からイメージしたと説明を受けたが、この作品は不整形な敷地を逆手に取って、外壁を「不整形な敷地」に合わせ、空間を雑然とさせ、その中に「見慣れ過ぎた直線の中廊下」を、その左右に一見平凡な玄関の扉が無表情に並んだ様な平面で構成されている。この2つの要素を重ね、二つとして同じ空間がないような、すなわち理想と現実、新しさと古さ、強さと弱さ、等々が渾然一体になって、魅力的な空間を生み出している。この作品は計画手法も明確だし、次の時代を切り開く力のある建築だと考えられる、力作であった。

知事賞部門第2部では、建築主:学校法人追手門学院、設計者:㈱三菱地所設計、須部恭浩の「追手門学院大学 1号館」が選ばれた。この作品は、まず最初に高低差のある敷地に、高密度に集積されたビルディング群と、敷地周辺の雑木林とのコントラストが魅力的だった。一見、今居る場所がどこなんだろうと思えるような都市空間的構成が、この計画の魅力である。次に、そのスカイスクレーパーに囲まれた空間の中に、アースワークによって、変化のあるグランドレベルの表情を作り、その中に、規則正しくグリッド状に、高木が配置されたランドスケープが秀逸であった。今回対象となった建築には、事務所棟という建築の特性故のことも知れないが、全体の空間の構成に、見るべき物が少なかったが、この建築は桜をモチーフにした面格子が重要な要素の一つであり、この桜の面格子に代表されるように、全体的に個々のエレメントに対する考え方や、作り方に力が注がれている。建築空間全体の構成から考えると、少し本質からずれてはいるが、そのエレメントのまとめ方には舌を巻く物がある。このような優れたエレメントの集積によって、建築を構成しようとする手法を用い、全体がまとめられた気持ちの良い作品である。

第2部の特別賞は、建築主:トヨタカローラ新大阪㈱、設計者:㈱竹中工務店大阪本店設計部、倉田悦男の「トヨタカローラ新大阪本社」が受賞した。この計画の敷地は西側に新御堂筋線が走り、車と電車が行き交う少しざらざらした雰囲気土地であり、東側には高層集合住宅の洗濯物が目に入る様な土地である。このような場所に、トヨタ自動車のショールーム、車の修理工場、オフィス、パーキング等が複合するビルが計画されている。この計画の基本的な考え方は、周辺の要素の活用と、開放系の計画手法である。この明確な考え方、作り方から、ショールームから工場や洗濯物が見えたり、屋上をショーウィンドー化にして電車から車を見せる等、多様な要素が関係性を持って計画され、気取らず軽やかで、独自性の高い建築を作り出している、まさに現代社会の申し子の様な計画だった。尚、渡辺節賞については、今年度はふさわしい作品が無く、今後に期待しようということで、本審査会では見送りになった。

最後に今回の審査を通して各受賞作品に共通していた事柄は、計画に関する要素を深く読み、その各々の要素を関係づけ、全体の構成とその目指す方向が明確だったことと同時に、その全体を構成する一つひとつの部分の要素の意味を問い、そこから生まれる個々の要素の独自性が集まって、全体が多様で満たされている。そんな楽しい作品が受賞する結果になった。

●大阪府知事賞部門 第1部 [延床面積 3,000 未満の建築物] 入賞作品

Grotto

設計者 あしざわりゆういち 芦澤 竜 一 (芦澤竜一建築設計事務所)

*概要

建築位置 兵庫県芦屋市業平町 6-11
建物用途 事務所 併用 店舗
建築主 (匿名)
施工者 日本建設(株)
竣工年月 2009 年 12 月
構造 RC造一部S造
階数 地上5階 地下1階
敷地面積 451.95 m²
建築面積 322.06 m²
延床面積 1,431.30 m²

(撮影者:市川かおり)



*審査講評

交通量の多い沿道で不定形な敷地形状に従った厚いコンクリートの外殻を作る。それによって保護され自由になった内部に透明な多様性を導入する。こうしたプロットが伺えるこの作品を、実際に訪れてみると予想以上に繊細な身体感覚によって、統制されているのに気づく。一見ラフな仕上りを志向しているかのようで、意表をつく洗練とプリミティブさに、一方で慣習化した生活に対する問いかけと他方で近代を遥かに越える建築への眼差を感じた。(米田審査委員)

*設計者プロフィール

1971 年生まれ
1990 年 早稲田大学理工学部建築学科入学
1994 年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1994~2000 年 安藤忠雄建築研究所
2001 年~ 芦澤竜一建築設計事務所 主宰
現在 大阪市立大学、京都市立芸術大学、近畿大学、
神戸大学非常勤講師
1 級建築士 大阪府建築士会正会員



[主な建築作品と受賞歴]

<主な作品>

2000 年 VAJRA Forest
2003 年 SHH
2005 年 SETRE Chapel
2009 年 Sg
2009 年 水都大阪 2009 水辺の文化座

<主な受賞歴>

2004 年 第 50 回大阪建築コンクール 渡辺節賞
2006 年 ロシア国際建築賞「PRESENT OF FUTURE」Space award (ロシア モスクワ)
2007 年 SD レビュー2007 SD 賞
2007 年 関西建築家新人賞
2008 年 THE 2008 INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARDS (アメリカ シカゴ)

●大阪府知事賞部門 第2部〔延床面積3,000以上の建築物〕入賞作品

追手門学院大学 1号館

設計者 ^{す べ やすひろ} 須部恭浩 (株三菱地所設計)

*概要

建築位置 茨木市西安威 2-1-15
建物用途 事務所 (学校)
建築主 学校法人 追手門学院
施工者 (株)大林組
竣工年月 2009年7月
構造 RC造一部S造
階数 地上3階 地下1階
敷地面積 153,238.96 m²
建築面積 1,532.44 m²
延床面積 4,812.53 m²



(撮影者：黒住直臣)

*審査講評

端的に批評するのが難しい建築である。この学院の花である桜をアルミキャストで造り、外装に纏うことで、内部と外部を調停する装置として設えている。構築性や明快な空間構成は見当たらないが、外装だけでなく‘好み’で集められたディテールが次々と展開する内部空間は複雑な様相を呈しており、その空間体験の豊かさは類を見ない。構築性よりも集積する部分に帰着していくことの是非を問うべきかもしれないが、この賞が、作品のみならず設計者が将来の建築界の一翼を担うであろう期待値をも含むものだとなれば、それは十分に値するものだと言うことができる。(松本審査委員)

*設計者プロフィール

1972年生まれ
1991年 明治大学理工工学部建築学科入学
1995年 明治大学理工工学部建築学科卒業
1995年 三菱地所株式会社に入社
2000年 株式会社三菱地所設計 東京本店・大阪支店を経て
現在上海事務所首席代表
1級建築士 大阪府建築士会正会員



[主な建築作品と受賞歴]

1997年 よみうりランドレストラン JCDデザイン賞／神奈川県川崎市景観賞-
2001年 室戸少年自然の家展望台 グッドデザイン賞
2006年 追手門学院大学守衛所 渡辺節賞／グッドデザイン賞／SDA(日本サイン協会)賞関西デザイン賞-
2006年 西心斎橋W-place (商業ビル)
2007年 追手門学院大学中央棟 大阪府都市景観賞／SDA(日本サイン協会)賞
2009年 追手門学院大学1号館
※2001～2009年 追手門学院大学内キャンパス開発すべてに関わる

●大阪府知事賞部門 特別賞

トヨタカローラ新大阪 本社

設計者 ^{くらたえつお} 倉田悦男 (株)竹中工務店

* 概要

建築位置 大阪市淀川区東三国 3-11-2
建物用途 ショールーム・事務所
建 築 主 トヨタカローラ新大阪(株)
施 工 者 (株)竹中工務店
竣工年月 2009 年 8 月
構 造 S 造
階 数 地上 7 階 地下 1 階
敷地面積 3,080.5 m²
建築面積 1,809.1 m²
延床面積 11,246.9 m²



(撮影者：古川泰造)

* 審査講評

額縁状に空中に張り出した屋外ショールームを上層に持つなど、眼前の高架を走る自動車や列車からの視線への訴求の仕方に、独創性がある。足元では、来訪客や街を行き来する人々の視線を受け止め、都市が持つ様々な速度に対応した表情(看板機能)を獲得している。ルーバー材の多用によって環境配慮を表明し、かつインダストリアルな表現を強めており、街の文脈、そしてカーディーラーの施設が備えるべき文脈に巧妙に収まっている。(山本審査委員)

* 設計者プロフィール

1966 年 生まれ
1986 年 京都大学工学部建築学科入学
1990 年 京都大学工学部建築学科卒業
1990 年 京都大学大学院工学研究科修士課程入学
1992 年 京都大学大学院工学研究科修士課程修了
1992 年 (株)竹中工務店入社
1993 年 (株)竹中工務店大阪本店設計部
1999 年 現地法人ヨーロッパ竹中
2007 年 (株)竹中工務店大阪本店設計部
現在、竹中工務店 大阪本店設計部 設計グループリーダー 課長
1 級建築士



[主な建築作品と受賞歴]

1995 年 神戸メリケンパークオリエンタルホテル BCS 賞 (1997)
1998 年 浜天津琵琶湖ホテル (基本構想：シーザー・ペリアソシエイツ)
2006 年 KIA スロバキア自動車組立工場
2008 年 ダイキンアレス青谷(鳥取) 中国ニューオフィス奨励賞、照明普及賞

大阪建築コンクールの開催主旨とこれまでの経過

大阪建築コンクールの開催主旨とこれまでの経過

●大阪建築コンクール開催主旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会の会員を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

本コンクールを通じて一般市民の皆様が、建築士についての関心と理解を深め、また、これを機会として建築士が地域社会との関わりについての自覚を更に高めることを目的としている。

●大阪建築コンクールの経緯

- 1) 設 立 昭和 29 年度
- 2) 主催者 昭和 29～52 年度 大阪府〈建築部主管〉、審査を社団法人大阪府建築士会に委託
昭和 53 年度より社団法人大阪府建築士会に主催が移管
- 3) 開 催 昭和 29 年度より現在まで、毎年開催し本年度で第 56 回を迎えた。
- 4) 目 的 当初は戦災復興と建築文化の進展を目途に、優秀な建築作品（その設計者である建築士）を表彰する。大阪府知事が表彰することで、府民の関心を呼び、初期の目的を達成。

現在は地域社会の発展と建築文化の向上について、建築士はもとより府民にも関心を持って頂き、住みよい社会をつくりだすことを主な目的としている。

- 5) 表 彰 大阪府知事賞：隔年毎に対象建築物を下記の 2 種類に分けている。

1. ノンセクション（住宅を主としたものは除く）

2. 住居用建築物（併用は含むが、複合建築物で一部分のみ住宅の場合は除く）

＊今回 56 回はノンセクションの年

渡辺節賞（本会初代会長の故渡辺節の名前を冠した新人賞 第 24 回に創設）

＊第 56 回までで通算 254 作品を表彰（渡辺節賞 30 作品含む）

渡 辺 節

(1884～1967)

東京に生まれる。明治 41 年東大工科大学建築学科を卒業。韓国政府度支部建築所技師となる。釜山や仁川の税関庁舎など設計。同 45 年鉄道院へ入り京都駅を新築した。大正 5 年独立して建築事務所を開設。以後関西地区を中心に数多くの建築を設計した。アメリカ式の合理主義的な経済性への配慮と平面計画の堅実さ、親しみやすい形式的な意匠の適切な選択などで、現実的な関西の財界に信頼があった。また若き村野藤吾がその事務所で 10 数年の修行を重ねたことも特筆しなければならない。作品は、大阪商船神戸支店、日本興業銀行本店、大阪ビルディング、同東京支店、日本勧業銀行本店、日本綿業倶楽部などの他、枚挙のいとまがない。